

平成27年4月15日

平成27年度病虫害発生予報第1号

長崎県病虫害防除所長

向こう1か月間における主な病虫害の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
水稻共通	ヒメトビウンカ(技術情報第1号) 縞葉枯病(技術情報第1号)	- -	やや少 少
麦類	うどんこ病 赤かび病(防除情報第14号継続)	少 -	少 やや多
ばれいしょ	疫病(防除情報第1号継続) アブラムシ類 ジャガイモガ	並 やや多 並	並 やや多 並
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 コナジラミ類	並 並 やや少	並 並 並
いちご (本圃)	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	並 やや多 やや少 やや多	並 やや多 やや少 やや多
かんきつ	そうか病 かいよう病 ミカンハダニ	- - 多	並 少 多
なし	赤星病 黒星病 アブラムシ類	並 並 並	並 並 並
果樹共通	カメムシ類	並	並
茶	カンザワハダニ チャノキイロアザミウマ クワシロカイガラムシ	多 やや少 やや少	多 並 やや少

【発生予報】 本文の()内は平年値

水稻共通

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

平成27年4月15日付け、病虫害発生予察技術情報第1号による。

麦 類

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

- ア 4月上旬の巡回調査(二条大麦9筆、小麦15筆)の結果、発生を認めなかった(二条大麦:発生を認めない、小麦:発病茎率0.0%、発生圃場率1.7%)。
- イ 4月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

2. 赤かび病

平成27年3月27日付け平成26年度病害虫発生予察防除情報第14号を継続。
 その後の発生状況等については以下のとおりであるが、出穂期以降、曇雨天が続いており、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並または多い見込みであるため注意が必要である。

(1) 発生状況等

- ア 4月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。
- イ 4月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

ばれいしょ

1. 疫 病

平成27年4月6日付け病害虫発生予察防除情報第1号を継続。

なお、その後の発生状況等については以下のとおりである。

(1) 発生状況等

- ア 4月上旬の巡回調査(24筆)の結果、発生を認めなかった(発生株率0.0%、発生圃場率0.5%)。
- イ ジャガイモ疫病初発期予測モデル(FLABS長崎モデル:農林技術開発センター)によると、2月15日、3月1日、3月15日を出芽日とした予測初発期間は下表のとおりである。
- ウ 下表の予測初発期間を参考にして発病前に防除を行う。**病害虫発生予察防除情報第1号**を参考に本システムを利用した的確で効率的な防除を行う。

表 ジャガイモ疫病の予測初発期間(平成27年春作)

出芽日	2月15日	3月1日	3月15日
長 崎	4 / 1 ~ 11	4 / 7 ~ 17	4 / 11 ~ 21
大 瀬 戸	4 / 9 ~ 19	4 / 11 ~ 21	4 / 13 ~ 23
大 村	4 / 11 ~ 21	4 / 13 ~ 23	4 / 15 ~ 25
島 原	4 / 9 ~ 19	4 / 11 ~ 21	4 / 12 ~ 22
口 之 津	4 / 10 ~ 20	4 / 11 ~ 21	4 / 12 ~ 22
平 戸	4 / 13 ~ 23	4 / 41 ~ 24	4 / 16 ~ 26
福 江	3 / 30 ~ 4 / 9	4 / 10 ~ 20	4 / 15 ~ 25
愛 野	4 / 11 ~ 21	4 / 11 ~ 21	4 / 12 ~ 22
西 諫 早	4 / 15 ~ 25	4 / 16 ~ 26	4 / 16 ~ 26

注1) 表中の - は4月14日までのアメダス観測値では初発時期を予測するための要件を満たしていないことを示す

注2) 愛野は農林技術開発センター馬鈴薯研究室(雲仙市愛野町)、西諫早は農林技術開発センター(諫早市貝津町)の観測値による予測結果

2. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(24筆)の結果、寄生株率は10.7%(5.5%)、発生圃場率は58.3%(50.5%)であった。

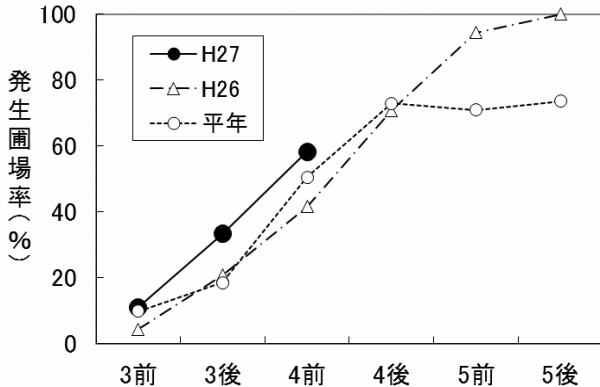


図 アブラムシ類発生圃場率の推移 (巡回調査)

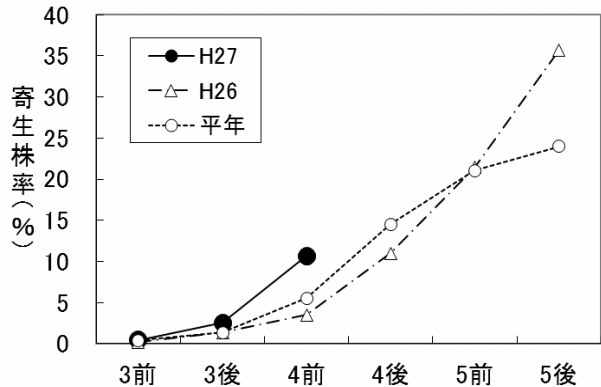


図 アブラムシ類寄生株率の推移 (巡回調査)

3. ジャガイモガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(24筆)の結果、発生を認めなかった(被害株率0.1%、発生圃場率0.6%)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 栽培期間中に薬剤防除を行い本虫の密度低減を図る。

イ 畝表面に露出したいもに産卵するので、栽培期間中は土寄せを十分に行う。

ウ 掘り取りは日中に行い、掘り取ったいもは長く圃場に放置せず成虫が活動し始める夕方までに屋内に収納する。圃場に残したくずいも等はできるだけ早く処分する。

エ 秋作用種いもを貯蔵する場合、貯蔵庫の開閉部や隙間からの成虫の侵入を防ぐとともに、貯蔵庫に収容したいもは寒冷紗、こも等で覆って成虫の侵入を防ぐ。

オ 貯蔵中に被害が発生した場合は、定期的に被害いもを除去する。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.1%(0.4%)、発生圃場率は25.0%(17.7%)であった。

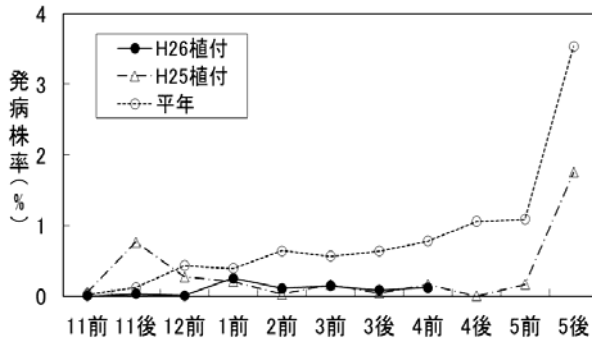


図 トマト 黄化葉巻病 発病株率の推移

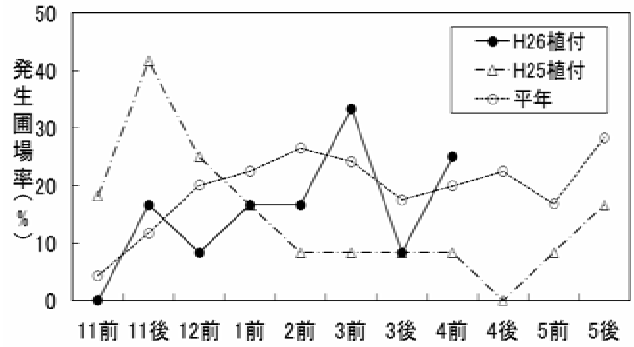


図 トマト 黄化葉巻病 発生圃場率の推移

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病果率は0.6%(0.5%)、発病葉率は1.3%(過去2カ年平均2.2%)、発生圃場率は41.7%(29.2%)であった。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.3%(1.6%)、発生圃場率は25.0%(30.2%)であった。

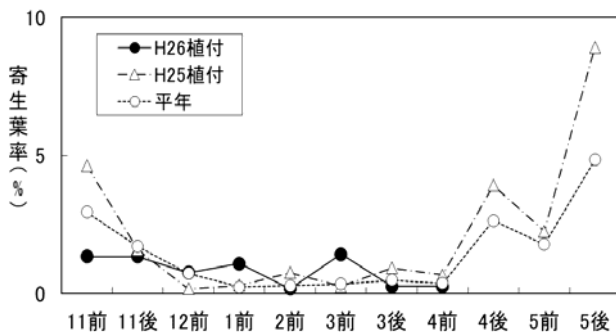


図 トマトのコナジラミ類 寄生葉率の推移

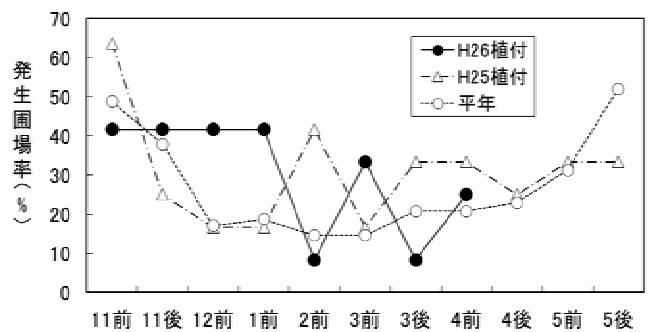


図 トマトのコナジラミ類 発生圃場率の推移

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.2%(0.1%)、発病果率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は7.4%(7.6%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.4%(0.2%)、発生圃場率は25.9%(19.7%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 하우스内が多湿にならないよう曇雨天時や気温が低い日もできるだけ換気を行う。
- イ 被害果等の発病部位は伝染源となるので、早期に取り除きハウス外へ持ち出し、適正に処分する。
- ウ 予防的な薬剤防除に努め、曇雨天時はくん煙剤を利用する。
- エ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生を認めなかった(寄生株率0.5%、発生圃場率8.4%)。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は12.9%(9.2%)、発生圃場率は66.7%(42.7%)であった。

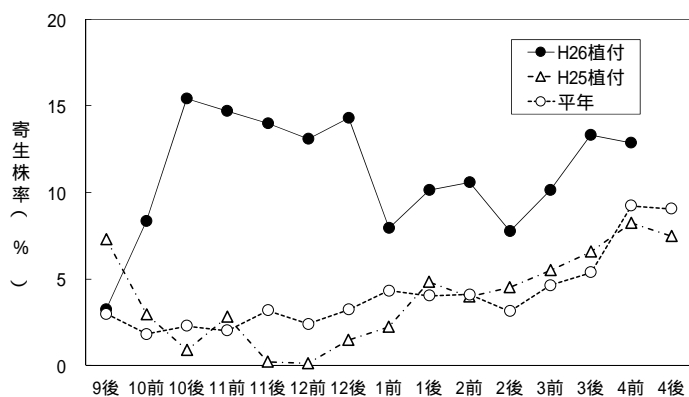


図1 いちご ハダニ類 寄生株率の推移
 平年: H16~H25の平均値(最大・小値除く)
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19~H25の平均値

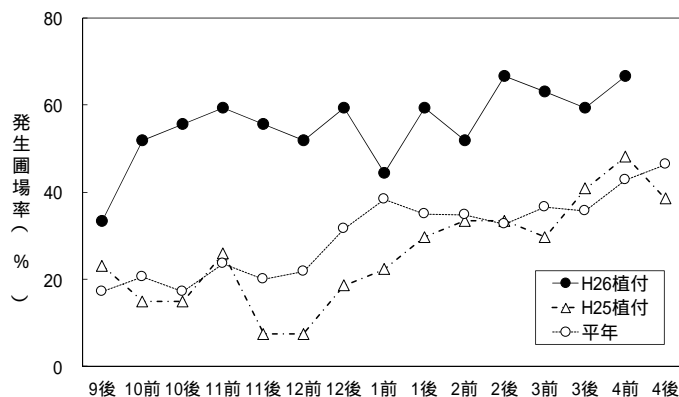


図2 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移
 平年: H16~H25の平均値(最大・小値除く)
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19~H25の平均値

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 下葉の裏に多く寄生するので、薬剤散布は古葉の整理を行った後、薬液が

- 葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。
- イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。
 - ウ 薬剤散布に当たってはラベルを確認し、使用回数等、使用基準を遵守する。

かんきつ

1. そうか病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月下旬の巡回調査(36筆)の結果、旧葉での発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率2.0%)。

2. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

3月下旬の巡回調査(36筆)の結果、旧葉での発病葉率は0.0%(0.3%)、発生圃場率は2.8%(19.7%)であった。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は14.4%(1.0%)、発生圃場率は52.8%(17.3%)であった。一部の地域で多発生圃が認められた。

なし

1. 赤星病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.1%、発生圃場率1.0%)。

2. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率0.8%)。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生新梢率は0.1%(0.4%)、発生圃場率は8.3%(19.8%)であった。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1～2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬量調査の結果、常緑広葉樹林の落葉中の虫数は0.25頭/m²(0.44頭/m²)と平年並であった(平成27年3月4日付け**平成26年度病害虫発生予察技術情報第4号**参照)。

茶

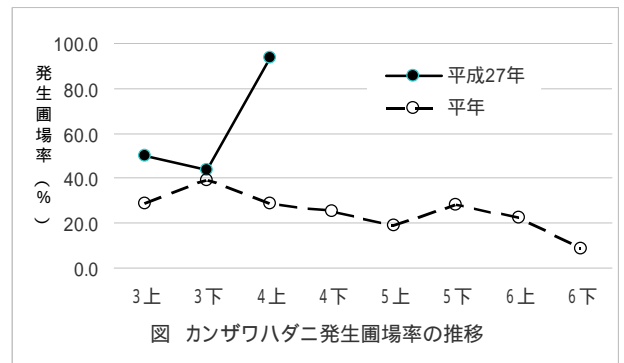
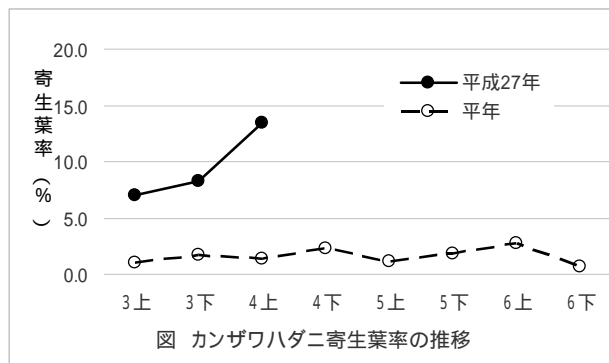
1. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生葉率は13.5%(1.3%)、発生圃場率は93.8%(28.9%)で、発生が多い状況である。



(3) 防除上注意すべき事項

ア 摘採時期が近づいているので、摘採前に農薬散布する場合は農薬使用基準に十分注意する。

イ 農薬散布の際には、薬液が葉裏にも十分かかるように丁寧に散布する。

ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、たたき落とし虫数(5回×4カ所当たり)は1.6頭(6.4頭)、発生圃場率は68.8%(64.1%)であった。

イ 向こう1ヶ月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

3. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生株率は2.5%(7.9%)、発生圃場率は37.5%(57.0%)であった。

